

令和5年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「共同研究班」 研究報告書

令和6年4月30日現在

研究課題名	④スラブ・ユーラシア地域の文化・言語		
担当者	氏名		所属機関・職
	1	安達 大輔	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・准教授
	2	野町 素己	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・教授
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	小椋 彩	北海道大学文学研究 院・准教授	ロシア文学・ポーランド文学
	研究テーマ		
	スラヴの環境表象、亡命文化		

研究成果の概要

2023年9月29日、ティンティ・クラブリ博士(ヘルシンキ大学准教授)を招聘、講演会(Russia's Arctic Indigenous Literatures in Ecocritical and Postcolonial Perspective)、同30日、シンポジウム「スラヴ文化の森」を組織した(以上、主催:科研費基盤(B)、共催:北大大学院北方研究教育センター、北大スラブ・ユーラシア研究センター)。

11月4日にロシア東欧学会全国大会で組織されたパネル「スラブ・ユーラシアの環境を考える」にて発表「ポーランドの小説と都市のエコロジー」を行った(招待有)。この発表をもとに、ロシア東欧学会誌に論文「19世紀ポーランドの文学と自然・都市・エコロジー」を寄稿した(印刷中)。

11月20日にアダム・ミツキェヴィチ大学人文学部で講義「"Spotkanie środkowoeuropejskiej autorki z orientalnym światopoglądem (refleksje po tłumaczeniach książek Olgi Tokarczuk)"」(「中欧の作家と東洋的世界観(トカルチュク翻訳をめぐって)」ポーランド語、招待講義)を行った。

以上によって、ロシア・中東欧における国民文学史を環境の観点から見直した。ポストコロニアル研究とエコクリティシズムを組み合わせたクラブリ博士の講演と併せ、本共同研究班が目指す生存戦略の観点からのロシア中心の文化史の見直しに大きく貢献した。この研究をもとに、クラブリ博士と本班担当者の安達は北海道大学・ヘルシンキ大学の大学間交流プログラムの枠内で2024年3月11日にヘルシンキ大学において共同の講義を行い、教育・研究両面での協力を進めた。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

雑誌論文

「19世紀ポーランドの文学と自然・都市・エコロジー」『ロシア・東欧研究』53号（印刷中、謝辞無し）

学会発表

「ポーランドの小説と都市のエコロジー」『ロシア・東欧学会 2023年度研究大会』2023年11月4日於京都大学

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

なし

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。